



糖尿病の専門医だからこそできる きめ細やかな治療を身近な地域で提供

昭 和32年の開院以来、半世紀以上にわたって地域の
人々の健康を見つめてきた『石橋医院』。大学病院で糖尿病治療に従事してきた石橋健一先生

とを判断基準にしていると話す石橋先生。患者が入院した時は、様子を見にできる限り病室に顔を出すのも、患者思いの先生ならではの心配りだ。

「私の顔を見るとほっとするの、中には泣きだしてしまう患者さんもあります。そんなときは『本当に信頼していただけているのだな』と、こちらもうれしくなります」

「町のお医者さん」として幅広いニーズに応える一方で、同院が力を注ぐのが、石橋先生の専門でもある糖尿病の治療。患者とその家族、糖尿病予備軍を対象に定期開催している「糖尿病教室」は、毎回多くの参加者が集まる盛況ぶりだ。

中でも石橋先生は、血糖値が正常にも糖尿病にも属さない、いわゆる「境界型」の人こそ注意が必要と警鐘を鳴らす。

「その時点ですでに動脈硬化が隠れていることも多く、自覚症状がないまま進行し、将来、心筋梗塞や脳梗塞が発症する危険が高くなってしまうことがあります。血糖値が高め、あるいはメタボリックシンドロームで、特に何もせずに放置されているという方は、一日も早く相談に来ていただきたいと思います」

実際に訪れた人の本音を知りたい! **来院者の声**

◎昔からあるクリニックで、丁寧な診察をしてくれると評判です。今の院長は糖尿病が専門の先生で、太り気味の私も食生活や運動不足について時々アドバイスを受けています。とても親身な先生で、何でも相談しやすい雰囲気が入っています。(50代/男性) ◎患者の疑問点をしっかり聞いてくださる、温かな雰囲気の良い先生です。フローリング調で、あまり病院っぽくないところも◎。スタッフの方がとても感じがよく、居心地がよいです。(40代/女性)

医療法人社団 健隆会 石橋医院

石橋健一 院長

Kenichi Ishibashi

内科
小児科/糖尿病内科/代謝内科



1 患者目線に立った診療姿勢が安心感につながる 2 糖尿病専門医として生活に密着したアドバイスを実践 3 木目が優しい待合室は通路にゆったりとスペースを確保



PROFILE

世田谷区上馬で生まれ育ち、東京慈恵会医科大学卒業後、同大附属病院および第三病院、米国カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部で、糖尿病専門医としての研鑽を積む。2002年、石橋医院・二代目院長に就任。国立病院東京医療センターをはじめとする近隣の基幹病院との密な診療連携体制のもと、日夜、糖尿病の早期発見・治療と重症化予防に力を注ぐ。趣味のマジックはプロ級の腕前。

DATA

電話 03-3410-3377
住所 世田谷区上馬1-11-9
駐車場 有
休診日 日・祝

診察時間
9:00~12:00 ●●●●●●
16:00~18:00 ●●●●●●

さらにくわしく

MAP P212 C-2